



KEIGLAD ハノイ法科大学オフィスにおける 研究会開催報告

工藤敏隆（慶應義塾大学院法務研究科准教授）

2018年12月に開設された KEIGLAD ハノイ法科大学オフィスを活用し、同大学と義塾法務研究科の学術交流を深めるべく、「民事紛争の裁判外における解決手続（ADR）に関する特別ディスカッション：日本の経験から」と題する研究会を、2019年10月14日に開催しました。当初は KEIGLAD のオフィスを会場とする予定でしたが、予想以上に多くの方々（約30数名程度）の参加を得たため、ハノイ法科大学のご厚意により、同大学内の広く設備が整った会議室を会場としました。

研究会では、最初に私工藤が、「日本における ADR の過去、現在、未来」と題する約1時間の英語による報告を行い、伝統的な司法型 ADR である民事調停および家事調停や、いわゆる ADR 法が2007年に施行された後の民間型 ADR の状況などを紹介しました。その後の質疑では、ハノイ法科大学の民事法部門の先生方をはじめとする出席者から、調停前置主義や、訴訟上の和解なども含めた様々な論点について、示唆に富む質問やコメントを数多く頂戴し、現在のベトナムにおける民事訴訟法改正や ADR 法立案の検討状況についても知ることができました。

以上のように盛会となった研究会の開催にご尽力頂いた、ハノイ法科大学の教職員の皆様に、この紙面を借りてお礼を申し上げます。特に、民事訴訟法研究者の視点からの確かなコメントを賜った Trần Anh Tuấn 教授と、英語・ベトナム語通訳を完璧に務めて頂いた Nguyễn Huy Hoàng Nam 講師に心から感謝申し上げます。

末筆となりましたが、折しも2019年11月にハノイ法科大学が創立40周年を迎えたことに祝意を表しますとともに、記念撮影をご一緒させて頂いた Vũ Thị Lan Anh 副学長にお礼を申し上げます。今後も、KEIGLAD ハノイ法科大学オフィスでの国際交流の機会を多く持ちたいと考えています。

初めてのカンボジア体験記

内藤つばさ（慶應義塾大学院法務研究科修了生）



仲良くなったクラスメートと
（右から2番目が内藤さん）



首都プノンペン



コンボンスプー州の友人宅

2019年7月、私は海外エクスターンで1ヶ月間カンボジアに滞在しました。現地では、パニャサストラ大学の授業を受けながら、リサーチペーパーの準備を行いました。初めての国でしたが、教授や学生らが皆親切で、リサーチに大変協力してくれました。

また、休日にはローカルレストランやマーケットに連れていってもらいました。私がより深くこの国を知りたいと話したところ、ある学生が彼の実家を案内してくれました。そこは簡素な高床式の住居で、風呂やトイレは無く、雨水を溜めて生活していました。私は高層ビルが建ち並ぶ首都プノンペンで生活していたので、多くの家庭が彼の実家のような暮らしをしていると知ったときは、大変衝撃を受けました。カンボジアは成長が著しい国です。今後もカンボジアの友人たちと交流を続けながら、この国の発展に注目していきたいです。

Report on the workshop at KEIGLAD Research Office in Hanoi Law University

Toshitaka Kudo (Associate Professor, Keio University Law School)

On 14 October 2019, the workshop titled “Special Discussion on Alternative Dispute Resolution of Civil Disputes (ADR): Experiences from Japan” was held at Hanoi Law University (HLU). The workshop aimed to promote academic collaboration between HLU and Keio University Law School, making use of KEIGLAD Research Office opened at HLU in December 2018. We had planned to use the KEIGLAD office for a conference venue. However, to accommodate the audience more than 30 people, HLU kindly reserved a large and well-equipped conference room instead.



Group Photo with Participants
(Prof. Kudo, Second from Right)

At the workshop, I made one-hour English presentation titled “Past, Present and Future of Alternative Dispute Resolution in Japan”, which covered traditional court-annexed ADR (civil mediation and family mediation), and recent situation and a future perspective of private ADR by the ADR Act enacted in 2007.

Discussion with audiences followed the presentation. Especially faculties in Civil Law Department of the HLU raised lots of insightful questions and comments on various issues including mandatory mediation in litigation, practice of conciliation in litigation, etc. Through the discussion, I got interested in legislative discussion on revision of Civil Procedure Code and creation of ADR Act, which are currently under way in Vietnam.

Let me express sincere appreciation to HLU faculties and staffs who dedicated themselves to the success of the workshop as described above. Especially, I am thankful to Professor Trần Anh Tuấn who gave us clear insights and summary from viewpoints of a civil procedure researcher, and Lecturer Nguyễn Huy Hoàng Nam who provided perfect English-Vietnamese interpretation for me.

Last but not the least, congratulations on the 40th anniversary of HLU in November 2019. I was honored to be taken commemorative photos with Vice-Rector Vũ Thị Lan Anh. We look forward to having another occasion of international academic collaboration at the KEIGLAD Research Office at HLU.

My First Study in Cambodia

Tsubasa Naito (Graduated Keio University Law School J.D Course)

In July 2019, I stayed in Cambodia for a month. I was taking courses at Pannasastra University and doing interviews for my research. Although I had known nobody in that country, professors and students were all kind and helped me a lot.

They sometimes took me to the local restaurants and markets. A male student invited me to his parents' house so I could learn the standard living of the country. I was shocked because they were living in a simple building made by wood and had no toilets nor bath in their house. They were using rainwater for daily lives. It was completely different from Phnom Penh, the capital city, where you can see many high-rise buildings. Cambodia is a rapidly growing country. I will keep my eyes on its development while I stay in touch with friends I made during this stay.

チューター便り

KEIGLAD の研究活動および国際交流事業は、たくさんの日本人学生の参加と協力に支えられています。

留学生の学修・日常生活をサポートするチューター学生の活躍をご紹介します。

長尾貴子（慶應義塾大学大学院
法学研究科後期博士課程）

2018 年秋にバングラデシュ人留学生のチューターを拝命しました。主要な活動の一つが、留学生のリサーチペーパー執筆のアシストです。各留学生が独自のテーマでリサーチ、執筆するため、そのアシストはマルチタスク。昨年は、久しぶりに刑事訴訟法を、また初めて警察法の勉強をしました。



バングラデシュからの留学生
(2019 年 9 月修了、東京)

しかし、大学院に在籍しながら異国情緒が味わえる素晴らしい機会です。彼らと差し向かいで話していると、不意に南アジアの風を感じ、日本にいることを忘れそうになります。このような巡り合わせに感謝し、これからも微力ながら活動して参りたいと思っています。

2019 年度下半期の活動報告

特に、活発な学生交流活動が行われました。

7 月、法務研究科修了生 2 名を各々、カンボジア・ベトナムに中期的に派遣し、研究活動を行いました。派遣学生の研究成果はリサーチペーパーとしてまとめられ、慶應義塾大学学術情報リポジトリ (KOARA) にて、公開予定です。

9 月、ハノイ法科大学と共催で、公法学をテーマにしたサマースクール・エクスターンシッププログラムを開催し、総勢 36 名（受入 25 名・派遣 11 名）の学生が参加しました。プログラムでは、各国の憲法に関する特別講義やプレゼンテーション、学生間の活発な議論が交わされました。

2020 年 2 月には、ヤンゴン大学と、初めてのエクスターンシップ（ミャンマー）を開催し、法務研究科からは、学生 8 名を派遣します。ミャンマーからも多くの学生が参加する予定です。

留学生の受入としては、9 月に交換留学生を 2 名（カンボジア・ラオス）受け入れるとともに、バングラデシュから JDS 生 2 名が LL.M. 正規生として入学しました。

2020 年 4 月からはミャンマー、ホーチミンなどから留学生が来日予定です。

12 月にはメコン地域諸国の留学生向け短期ワークショップ・プログラム「メコン地域諸国の未来と SDGs Goal 16」を開催し、各国からの参加者 12 名が、持続可能な開発目標 (SDGs) の、特にゴール 16 に関する取り組みの現状とその改善策について、シンポジウム「連携企画：アジアのための法制度整備支援 2019」（主催：法務研究科、共催：法務省・名古屋大学）にて発表しました。大学間交流の面では、12 月のハノイ法科大学に続いて、ホーチミン経済法科大学との間でも、デュアル・ディグリー協定を締結しました。4 月にはタマサート大学との間でも、協定を締結する予定です。学術交流活動の面では、日越民事訴訟法研究会の他、憲法共通教材ワークショップを開催しました（10 月）。

今年度の成果は KEIGLAD Eds. *How Constitutional Law Is Taught in Asian Universities* に公表予定（2 月）です。



サマースクール・エクスターンシップ
参加学生 (2019 年 9 月・ハノイ)



12 月プログラム参加学生たちの様子
(2019 年 12 月・東京)

プログラム開始からこれまでの交流実績 (2020 年 1 月現在)

年度	2016	2017	2018	2019	2020
派遣 (目標数)	16 (6)	20 (15)	20 (15)	21 (21)	- (21)
受入 (目標数)	1 (1)	20 (21)	45 (21)	39 (42)	2 (42)

Message from The Exchange Student Pralivath Chaleunsouk

(From Laos, Exchange student in 2019 Fall Semester)



With his professor
(Pralivath, Middle)



With his classmates (Pralivath,
Third from left)

There are several reasons why six-months as an exchange student at Keio University is becoming the most remarkable experience of my life. First of all, prior my arrival in Japan, my coordinator had a hard work to prepare my documents and given me a very detailed procedures to get into Japan as well as Mita Campus.

Furthermore, on my arrival date, her and a few professors came to give me a welcome greeting that made me feel overwhelmed and relieved. Secondly, this program gave me the occasion to study at Keio Law School which is one of the most reputable law school in Japan. Herewith, I have gained lots of knowledges both theory and practical techniques from learning through lectures and workshops arranged by matured law practitioners and teachers who has in-depth knowledges.

Lastly, my exchange program will not be meaningful if there is no good friend. So far, I have made many new friends within the same courses and my participation in university's activities led me to meet my Japanese friends. We like to have a meal together, sightseeing and exchange our cultures. These reasons above have not only provided me academic knowledges but it also enlarged my world and increased my self-esteem. Therefore, I highly recommend everyone to grab your chance to study at Keio University and make your story unforgettable.

これまでの活動報告

2016 年度

- 2 月：留学生 1 名受入れ（ベトナム）
- 3 月：シンポジウム開催
ホーチミン・フロンティア派遣 16 名
- 6-9 月：J.D 生ギャップ・チーム派遣
4 名（ハノイ・ホーチミン・タイ・カンボジア）
- 8 月：サマースクール&ハノイエクスターンシップ 派遣 11 名（他ハノイ 10 名・ホーチミン・カンボジア・ラオス・タイ各 2 名・ミャンマー 1 名）

2017 年度

- 4 月：LL.M. 正規生 1 名入学（タイ）
- 留学生 1 名受入れ（ベトナム）
- 8 月：短期サマースクール（ベトナム・カンボジア・ラオス・ミャンマー）14 名
- 2 月：ラオスエクスターンシップ 派遣 2 名
- 9 月：バンコクエクスターンシップ 派遣 6 名
- LL.M. 正規生 2 名入学（ベトナム）/留学生 2 名受入れ（ベトナム）/ワークショップ開催
- 2 月：民法・憲法共通教材作成会議開催
- 3 月：ホーチミン・フロンティアエクスターンシップ 派遣 12 名
- 9 月：LL.M. 正規生 2 名入学（ハノイ、タイ）
- 留学生 1 名受入れ（カンボジア）
- 11 月：民法共通教材ワークショップ
- 12 月：KEIGLAD 慶應義塾大学大学院法務研究科グローバル法研究所開所
- 2 月：ラオスエクスターンシップ 派遣 5 名・受入 19 名
- 3 月：JICA 法整備支援プロジェクト
ラオス研修員受入
修了式タイ 2 名・ベトナム 2 名

2019 年度

- 5 月：ダブル・ディグリー協定締結（ハノイ法科大学）
- 交流協定締結（ヤンゴン大学）
- *7 月以降の活動は「2019 年度下半期の活動報告」をご覧ください。

寄付ご協力をお願い

KEIGLAD は留学生および日本人学生に対する継続的な留学支援および教職員の相互交流を促進するために「**アジアにおける法学教育連携推進資金**」を設置いたしました。詳細については、法務研究科学生部へお問い合わせ下さい。

慶應義塾大学大学院法務研究科 東京都港区三田 2-15-45

TEL: 03-5427-1778 Eメール: law-jm@adst.keio.ac.jp